

青山学院大学駅伝の2020年度の成績は、全日本大学駅伝第4位（2020年11月）、箱根駅伝復路優勝・総合第4位（2021年1月）の結果を残すことができました。勝負は結果から評価されます。しかし、駅伝チームの皆さん（監督・選手・スタッフ、顧問の部長先生）の真摯な姿勢と結束は、私たちに、青山学院大学への誇りとともに、勇気を与えてくれます（出雲駅伝は中止）。

部員の皆さんは、家庭での教育（躰）をきちんと受け基礎学力も高く、一般の学生と一緒に授業を受け、学生生活を送っています。温和で素直な人間が多いというのが私の印象です。私がおの様子を知るため、部員の皆さんが毎朝行っている「今日の一言」を見えています。これは、twitter上でも紹介されていますので、一般に見ることができます。その中で、なるほどと思ういくつかを紹介します。私も、勇気をいただいています。



2020年箱根駅伝応援（二宮付近）

## ◇「準備は結果を予測する」（久保田和真 16年教育人間科学部卒）

教育実習で準備の大切さ、それが結果に大きく反映されることを学びました。何事にも準備をしっかりとしていきたいと思います。

## ◇「笑いながら泣くような日々を、泣きながら笑うような日々を」（安藤 悠哉 17年教育人間科学部卒）

いきものがかりの「笑顔」の歌詞の一部です。笑いながらも泣いて、泣きながらも笑えるような人生にしたいです。そうして人は強くなるのだと思います。涙を笑顔に変えられるように。

## ◇「謝罪の言葉より感謝の言葉を多く伝えよう」（小田 俊平 17年理工学部卒）

謝罪の言葉より感謝の言葉を伝えよ、と主務に言われました。ごめんなさいと謝罪するのも大切ですが、ありがとうとプラスな気持ちを伝えたいと思います。

## ◇「天才とは1%の才能と99%の努力である」（桂川 直也 19年理工学部卒）

天才と呼ばれる人も人並ならぬ努力を重ねています。逆に言うと99%の努力をしても1%のひらめきが必要です。やみくもに努力しても意味がないのかもしれない。

## ◇「The first and best victory is to conquer self.」（佐藤 一世 総合文化政策学部2年生）

「自分に打ち勝つことが最も偉大な勝利である」これは哲学者プラトンの名言です。他者との勝負はとても重要です。しかし、自分自身との勝負はそれ以上に重要なことです。日々の生活の中で「自分」というライバルに打ち勝ち、自信に変えていきましょう。

## ◇「今日は明日の準備期間」（野川 寛太 教育人間科学部4年生）

去年1年間を通して、次のことを考えながら計画的に行動する機会が多くありました。今年は最上級生としてより考えて行動しなければなりません。明日の「自分」を想像した時、今何をしなければならないのか、4年生中心としてチーム全体で取り組んでいきたいと思っています。

このように部員の皆さんは、毎日の学生生活の中で色々考え、それを行動につなげています。今年の箱根駅伝では、復路を出走した選手たちはすぐに町田寮に戻り、マスクをして他の部員といっしょに寮の食堂で静かに応援していた様子がテレビで放映されました。その放送を見ていて、チームワークの良さ・躰や行儀の良さ・知的な大学生の姿を感じ嬉しかったです。大切なことは、どのような結果でも、どのような状況でも「どう取り組むか」だと思います。彼らの4年間の成長を見守ってあげるのも、私ども校友 OB・OG の責任のような気がします。



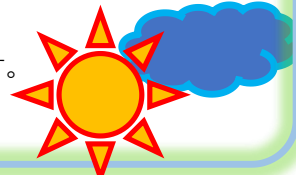
箱根駅伝応援グッズ

（斉藤満智子 93年）

## わたくしの今…

## —皆さんの三行消息—

皆様からいただきましたお便りを掲載しております。  
近況をお知らせください。お待ちしております。



**押川美智子(保坂) 58年**

「同窓会だより」いつも懐かしく読んでいます。今頃(11月)は、正門からの銀杏が黄色く色づいているでしょう。

**國岡 英久 59年**

3年ぶりにクラス会に出席。20数名集まり大盛況でした。皆さん元気でなによりでした。元気でしたら、来年も出席の予定です。今から楽しみにしております。

**松田 生子(川井) 59年**

いつもお世話様です。

**伊藤 恭子(真田) 60年**

「35年R組」は卒業後、年2回クラス会を楽しみに集いが続く。集合場所は新宿駅東口アルタ前、日時を決めて再会を約す。一人減り二人減り、遂に幹事役藤田光彦さん鬼籍に！コロナによる自粛生活が続いた今年3月8日は卒業61年目。皆勤出席者は福重行義さん、福岡光子さんお二人。この先どうなるのでしょうか？

**溪口 京子(秋野) 61年**

皆々様の今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。青山には、多くの思い出がいっぱいあります。これからも、思い出を大切に、そして青学のますますの発展を、かけながら応援しています。ありがとうございました。

**赤木 孝夫 62年**

2018年5月、右足が痛み出し歩行困難に陥った。診断結果は脊柱管狭窄症。整形外科への通院、半年。ブロック注射やリハビリを繰り返したが、効果ゼロ。そこで、20年以上通ったスポーツジムに日参し、痛みに耐えながら我流のストレッチ開始。仲間との会話も弾み、半年で杖が不要になり、5kg減少した体重も4kg戻った。高齢化による腰・足・肩の痛み等、命に関わる病でなければ、弱気・くよくよ・薬漬けなどのマイナス思考が最悪であることを体感した。「闘病」・「病は気から」等、古人の言葉が真髓についている。明るく、プラス思考で生きることの大切さを実感する日々である。

**米津奈津子(平石) 62年**

中等部からの各部傘寿の会で、賑やかな年でした。病院では、「ご高齢ですから」とさりげなく扱われることが増えました。

**内山貴美子(岩田) 63年**

10年余り癌を病んで克服し、今も心

臓、腎臓に問題を抱えておりますが、日本語を教えるボランティアを20年、下手な(?)水彩画とフラダンスを趣味で10年続けており、日々、何とか元気に暮らしております。

**須崎 敬子(岡崎) 63年**

毎年、同窓会誌をありがとうございます。年を重ねる毎に、青山キャンパスがなつかしく思われます。

**酒井 涼子(五十嵐) 67年**

東日本大震災から10年を超えました。昨年陸前高田では、高台への避難路「ハジメのみち」が完成したそうです。絵本でのご支援有り難う御座いました。そして…實吉義正氏が昨年2月23日亡くなりました。同窓会では講演や被災地訪問で大変お世話になりました。自粛が解かれ、1年余り中断している野山での自然観察会や被災地の方々との再会の旅が出来る日を待ち望んでいます。

**田中美津恵(松田) 67年**

いつもありがとうございます。数年したら長野県(軽井沢)に引っ越します。

**黒田田鶴子(小林) 69年**

今年(2019年)はゴールデンウィークで、長崎からわくわくしながら、懐かしい青学へ行きました！P組の仲間で行ったら、あっという間にP組の輪ができ、なんと17人も☆(待ち合わせていなかったのに!) 楽しいおしゃべりに学生時代に戻りました。そして、青学幼稚園での教え子2人も幼稚園のフェスにいて夢の再会ができました。すばらしい企画をありがとうございます。

**鈴木 春雄 69年**

学院を出てから早や52年、病と向かい合いながら趣味の海外の短波放送を聞いております。週に一度は、聖書に目を通して、私の好きな言葉は「絶えず祈れ」ルカ福音書7-17です。

**初津 啓 70年**

いつもお世話様になっております。未納の年度おり5年間の会費をお納めいたします。よろしく願いいたします。

**吉野 勲 72年**

毎日の“まご”のお世話にも体力の限界を感じています。とにかく、がんばろうと思います。

**上野 利夫 77年**

前年同様、小学校1年生対応非常勤務

師をしています(同期生に会いたいものです)。

**富永瑠美子(児玉) 78年**

80歳になりました。トビくをがんばっています。老齢になっても、目標をもっているのは有難いです

**一之瀬一彦 79年**

埼玉県公立中学校校長退職後、現在秀明大学学校教師学部教授として教師を目指す学生の教職科目の指導や、全学部の英語指導に当たっています。まだまだ現役に頑張っています。

**中津川宗憲 79年**

(同窓会役員をさせていただいておりました中津川宗憲の娘の絵理と申しますが、突然のご連絡で申し訳ございませんが、9月14日に父が急逝しました。生前、父は私にも同窓会のことを楽しく話しておりました。生前のご親交に感謝申し上げます。)

**宮川たまき(半田) 83年**

夫と二人暮らしです。父母とも80歳過ぎて元気で。子供の世話が成人式も終わり一段落です。

**吉野 寛美 85年**

父、そして母の在宅介護9年目。赤ちゃんに戻っていく母に寂しさと愛おしさを感じています。春に一人娘が社会人になるのを機に、自分のために何か始めようと思っています。

**栗田 文人 87年**

卒業から約35年、フリー紙記者として泥臭い取材に勤しんできました。気がつけばあと2年半で定年。幸い、体は丈夫なので、第2の人生をどうするか思案中です。教育とは無縁でしたが、これから何か世の中のお役に立てる仕事、ありますか？

**貫名 亜紀 88年**

令和元年、新たに保育士資格を取得しました。今でも子供達から元気を貰っている事に、感謝です。コロナに負けず、皆様もご自愛下さい！

**藤森 令子(與五澤) 88年**

卒業して32年、今年次女も卒業して、私と同じ幼稚園教諭となります。教育について話を出来るのが楽しく、懐かしく思っています。

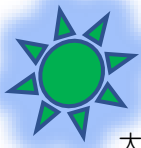
**石井 京子(小池) 89年**

企業ミュージアムに勤務しています。仕事に少しでも役立つように、学芸員の資格取得を目指しています。コロナ禍で思うように学習が進みませんが、久しぶりに学生に戻って楽しんでいます。

**石丸 博 89年**

愛知県の私立高校で校長補佐をしています。今は困難な毎日ですが、未来への視点を持ち語り続ける姿勢を大切にしたいと心がけています。





### 大河原温祥 89年

現下の状況をきっかけに2020年度は初めて人生について考えることが出来た年でした。生活する上で無くてはならないものとは？衣食住はもとより、健康・モチベーション・コミュニケーション・断捨離が大切だと。まさに極限のアーティストに必要とされるもの。強固な肉体・強い意思・情緒・謙虚さ、なのだとあらためて感じた2020年度。2021年度は、「日はまた昇る」ことを信じて、無限の可能を決して忘れないように頑張っていきたいと思います。

### 荻岡 秀浩 89年

現在、大田区立松仙小学校校長をしております。コロナ禍で制限の多い状況ですが、子供たちの健康・安全・人権を第一に今できることに精一杯取り組んでいるところです。

### 木村実花子(今井) 89年

コロナになって色々と振り返り考える時間ができたように思います。立ち止まる必要性を感じました。そんな中、今年就活の息子は、必死に頑張っていて、親として陰ながら応援している日々です。

### 中山 晴義 89年

現在、教育委員会で指導室長をしています。コロナ禍において、学校の感染拡大防止、ICT環境整備とその活用、35人学級対応等、教育課題は尽きない状況です。子どもたちのため、少しでも学校の支援ができればと考えています。

### 西村 真紀 89年

リモートワークでの新様式にもすっかり馴染んで参りました。祖父・西村酔香の詠んだ「葉がくれに 紅き椿の花さきぬ 鎌倉山の 春あさくして」只今は、まさにこの風景の中で過ごしております。終息を願って。

### 藤本 義彦 89年

小さな小学校(全校児童15名)の校長をしています。この3月に閉校となります。144年間の感謝の気持ちを込めて、そして子どもたちの未来を「希望の光」で照らすことができるよう、閉校式の夜には心いっぱい大きな花火を上げることにしています。

### 松野 鎮 89年

横浜市の小学校に30年勤めました。音楽を教えています。合唱部の指導をし、合唱の甲子園とも言えるNPOの全国大会に関東甲信越代表として6回出場しました(準優勝2回)。今はコロナ禍で音楽の指導が難しい状況ですが、改めて人の成長に影響し、人の命を預かる仕事なのだと感じています。こんな時だからこそ、自分自身が音楽を本気で楽しむこと、そして、初心にかえて教材研究に励み、時代にあった新たな指導法を研いこうと前向きに考えています。

### 松原 亜希(近藤) 89年

コロナ禍の毎日で、家族で食事を摂る事が増えました。必然的に食事を作る事も増えたので、新しいジャンルにも挑戦し、日々前向きに過ごしています。

### 宮路 憲昭 89年

東京から静岡に居を移して約20年。海外と行ったり来たり生活もそろそろ落ち着いてきました。今は審判員として少年サッカーのお手伝いをしています。

### 本西 光枝(大田) 89年

現在自治体議員という立場で学校にかかわらせていただいています。私の暮らす江戸川区にもようやく「子どもの権利条約」ができます。

### 仲田 敬子(倉田) 90年

経営学部経営マーケティング学科在学中の息子は体育会フェンシング部で活動していますが、度重なる緊急事態宣言で練習が山程でなんだかかわいそうです。春からは、娘が教育学科でお世話になりますが、どんな大学生活になるのか…新たな大学生活スタイルになるのだと思いますが、人と人との関わりが持てる、楽しい学生生活になる事を祈っています。

### 小平田仁志 90年

教師生活27年。北海道での生活も27年になりました。時がたつのは早いものですね。

### 大塚 貴子(小山) 91年

コロナ禍で当たり前だった日常はどこか遠くへ行ってしまいました。家族との時間が増えたり、忙しくて後回しにしていた事にも取り掛かれたり素敵な時間もありました。これからも感謝を忘れることなく過ごしていきたいです。

### 片岡 明美(中村) 91年

昨年に開設した「片岡亀蔵公式サトウ」。亀蔵と私で書いている毎日更新ブログをお褒め頂くことたびたび。主人はなかなか筆が進みませんが、私は「文学部卒」が役だっています。

### 野呂 智子(瀬名) 93年

自分が小学校時代に、「将来、先生のような小学校の先生になりたい」と思わせてくださった憧れの先生。その先生のお年を超える年になりましたが、足元にも及ばず、先生の偉大さを痛感しています。

### 柳 朋子(土屋) 93年

春に緊急事態宣言が出され、家族が揃って食事を摂るようになった日々。会話が控え、ゆったりとした生活が意外と心地よく感じました。外出出来ない日々は寂しさや不安もありましたが、部屋を片付けたりしながら家時間を有効活用出来たと感じています。

### 長瀬 茂 94年

だれひとりいない学校の青空を見て、胸苦しくなった1年前の春。そこから季節はめぐり子どもたちももどってきました。子どもたちの元気な笑顔が続くよ

うに、これからが本当の勝負です。

### 植場 鉄平 97年

同窓会のご案内、いつも有難うございます。下町情緒あふれる千代田区で小学校音楽専科を続けさせていただいております。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

### 船井ゆかり(藤木) 97年

自粛生活で外食ができなくなったので以前より料理をするようになりました。新しいメニューに挑戦したり、何年かぶりにお菓子作りもしてみたりして楽しんでます。でもやはり、自由に歩けて人に会える生活が恋しいです。

### 鈴木 祥子(池澤) 98年

コロナ禍でも学校がある今日。緊張感がありつつも、教室で子どもを目の前に教えられるありがたさを味わっています。

### 青木 洋介 02年

突然のメールで失礼いたします。私、2002年3月に第二部教育学科を卒業した青木と申します。この度は、教育学科同窓会のご案内をいただき、ありがとうございます。本日、終身会費をお振込させていただきました。卒業以来、まもなく20年かと思うと、月日が経つ速さを感じます。さて、私、卒業後、東京府中市にある・私立むさしの学園小学校に勤務しておりますが、昨年度から校長職を拝命しております。つきましては、学生さんの教育活動上、何かお役に立てることがございましたら、できる限りのことをさせていただきます。ご連絡申し上げます。全校児童200名あまりの小さな・素朴な学校ですからお役に立てることがあるかどうかはわかりませんが、ご連絡まで。突然のご連絡、失礼いたしました。

### 秋田 美和(菅) 02年

息子も小学生になり、一昨年から保育園で仕事を始めました。我が子以外の子どもに癒される日々です。

### 小松あゆみ 02年

子育てしながら、区の非常勤職員として、小学校で英語の授業のサポートをしています。

### 鈴木 順子 02年

コロナ禍で子どもたちの学習を進めながら、私も少しはデジタル機器を使えるようになりました。オンライン会議で言葉に詰まった時は、画面が固まったふりをしてます。

### 長澤 有希(中村) 02年

在校時に創立された同窓会が、もう創立20周年とは！まだまだ学ぶことが多い、精進する毎日です。会員の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

### 黒子 亜美(濱中) 07年

異例の6月入学式となった小学1年生の子どもたちと共に学ぶ毎日です。



## 役員の状況 この一年を振り返って①

この一年に感じたことを教育学科同窓会役員に書いてもらいました。皆様もさまざまなことを体験されたと思います。これからの生活の参考になれば嬉しいです。

### 心安らくニュース

教育学科同窓会会員の皆様、コロナ禍の中いかがお過ごしでいらっしゃいますか？コロナウイルスによる感染未だ収まらず、新聞やテレビでは困難な状況にある人々の様子が連日報道され、暗い気持ちになりそうな中、新聞に心安らくニュースを見つけました。

ある中学校の生徒たちが、川を挟んだ向かい側にある病院の医療スタッフに向けて、校舎の窓を使って感謝のメッセージを貼り出したところ、病院側からも同様に窓を使ってお礼のメッセージが返ってきたという話です（その後手紙のやりとりにもつながったとか）。現在緊急事態宣言が延長されている地域もあり、先行きの見えぬ不安を抱え自分のことで精一杯という人たちが多く、自らを顧みず患者たちのために尽くす医療従事者に感謝の気持ちを伝えたい、何か自分たちに出来ることはないかと真剣に考え、行動に移した中学生達…相手の思いに自らの心を重ねようとするその優しさを素晴らしいなと思いました。自身はと言えば、もういい加減外で美味しいものを食べたいとかそろそろ旅行にでも行きたいとか色々な誘惑に負けそうになる事もあります。様々な場所でこの困難を何とか乗り越えようと必死に頑張っている人達がいるのだということに思いを寄せ、もう一踏ん張りしようと思っている所です。本来であれば昨年教育学科同窓会は創立二十周年を迎え、いくつかのイベントも考えられていましたが、見送らざるを得なくなりました。でも近い将来皆様と一緒に心置きなくお祝い出来る日がくることを信じて、この困難を乗り越えていきたいと思っています。

石原 幸世(鎌田) 74年

### 素敵な仲間

コロナ禍で時間がたっぷりあったので、写真の整理をしていると、大学の卒業アルバムが出てきて、懐かしくページをめくっていくと、教育学科のR組のクラスメイト。R組の友人には本当にお世話になりました。私は、在学中、体育会のソフトテニス部に所属。クラブのモットーは文武両道。週3日の練習と、後は授業。それでも全日本で、何回も優勝した強いチームでした。そうは云っても、試合前の合宿や平日の試合もあり、授業を休まざるを得ない日もあり、出席日数はギリギリでした。そんな時、休んだ日のレポートをくれたり、参考書を貸してくれた。試合前には「頑張ってるね」と応援してくれた友人もいました。お陰で、テニスを続けながら、全日本ベスト8、大学も4年間で卒業出来ました。卒業から40年以上経っても、きっと今も、どこかで誰かの為に、優しい言葉をかけている事と思います。R組の皆さん、良い思い出をありがとうございました。

楠窪 政江(染谷) 75年

### 豊かな日を過ごすために

新しい生活様式が始まってから1年が経ち、すっかりこの自粛と我慢の生活に慣れて来たと思っていたころ、アドグル時代からの友人K君の訃報が入ってきました。共通の友人が「湘南の若大将だったね」とつぶやいていましたが、若大将のイメージ通り誰よりも若々しくはつらつとしていたK君の訃報はあまりに突然で心に深いショックを受けましたが、緊急事態宣言下で弔問も叶わず、悲しい気持ちを抱え悶々としながら考えたことがあります。

嵐(コロナ)の過ぎ去るのを待っていても昨日と同じような日が来るとは限らないのだから待つだけでなくこの状況下でもできることをして毎日を豊かに過ごすべきだと思ったのです。

同窓会では5月からオンライン茶飲み会を始めます(本号 p.2 参照)。皆様もコロナ禍だからこそその新しい1歩として参加してみませんか。お待ちしております。

澁谷智香子(高須) 83年

### 宇宙人教師と甲子園

大学時代、先ずはとにかく好きな道に進もうと思い、中高一貫私学の教員に。気づいてみれば 40 年近くも中高生徒たちの傍にすることになる。毎朝の HR から始まり、英語の授業、部活動、その他諸々と続く学校の生活も、完璧に自分のルーティーンとなり、これが無くなったら、一体どんな人生になるのか、実はあまり具体的な自分の姿が思い浮かばない。

「きっとこれが幸せというものだ」と勝手に結論付けていた矢先にガツンと来たのが、コロナ禍だった。生徒の間に垣根を作らないことを自分なりの信条として、仕事をしてきた自分だったが、今はフェイスシールドとマスク、それに自腹で購入したピックアップマイクと小型スピーカーで、生徒の前に立つ。

「自分を第 3 者的に見れば、ひょっとして宇宙人みたいに見えるのかなあ。教員は皆宇宙人みたいになってしまうのかなあ」

これまでとは、合点の違う自分自身の振る舞い、微妙に違う生徒の反応に、少しばかりの「違和感」と、その違和感から生じているであろう「疲労感」を感じざるを得ない(ニュースにはならないが、多分全世界の教員は同じような悩みを抱えていると思う)。

思い返せば、令和元年の夏、勤務校の野球部の責任教師として、28 年ぶりに夏の甲子園に出場し、初めて甲子園で校歌を歌うという、何物にも代えがたい経験をさせてもらった。一言で言えるようなものではないが、様々なハードルを部員・指導陣一丸となって乗り越えて行く中で、若者も、大人である指導者も、それを取り巻く様々な人たちも、お互いに、時にはぶつかりあい、時には喜びを分かち合いながら、それがまさに関係者全ての成長の場としての機能を果たしてきたのだ。教員は、その成長と一緒に汗をかきながら共有できることが、生き甲斐だったはず。

「Gmail で指示を出せば、済むことじゃないですか」というようなフレーズが職員室で飛び交うコロナ禍の現状に、またもや、違和感と疲労感を抱きながら、昭和の教師は明日も教壇に立つ。

樋口 晃 82 年

### 近況報告

皆様お元気ですか？現在、卒業してから 1 年間の神奈川県相模原市での小学校教諭の臨時採用を経て現在、青山学院大学の相模原キャンパスの学生生活課という部署で勤務しております。まさしく、コロナ対応で 2020 年度、大学はオンライン授業を中心にしていましたが、2021 年度は対面での授業にオンラインを組み込みながら、安心してキャンパスライフを過ごせるように、キャンパス内にコロナを持ち込まないような対策をいろいろ考えているところです。相模原キャンパスは、教育学科の学生はいませんが、理工学部、社会情報学部、地球社会共生学部、コミュニティ人間科学部、計 4 学部約 5,000 人学生が利用しています。学生全員が押し掛けるわけではありませんが、キャンパス内、密にならないようにするには、どのようにしたらよいかを考えています。所属が学生生活課になりますので、学生の正課外の課外活動について担当しています。ただ、学生は想定外の動きをするものだというのを日々の業務で感じております。早く元通りに学生が楽しいキャンパスライフを過ごすことができたらと思っている今日この頃です。

竹田 治世 85 年

### 日本人の力

皆様、いかがお過ごしでしょうか。何かと気が晴れない方も多いと思いますが、私はこの環境変化が常態化する状況を、それなりに楽しんでます。正確に言うと楽しもうと思っています。私はこれまでの人類の歴史に対しても、未来に対しても肯定的にとらえています。これからも人類は望ましい方向へ進歩していくと。「強いものが環境適応して生き残っていく」という進化論の「強いもの」は決して腕力、戦力、権力といったものではなく、共通善に基づいた人間性、生きとし生けるものを仲間と思える共感力、そして個性を大事にする心を持つものだと思います。

そして、森羅万象、自然全体に靈性を感じてきた日本人にはその力があると感じています。これからも肯定的な人間観、社会観を持って、個性を大事にしながら、環境変化に対応していこうと思っています。

田中 稔哉 86 年

## パソコンとホワイトニー

春前からコロナの問題が指摘され、新年度を迎えても教壇に立てないという事態に陥り、春はこの先どうなるのかと不安でたまりませんでした。20年にわたって講義していた科目も、対面講義がかなわず、これまで話して板書して、テキストを見ながら説明して、という一連の動作をパソコン上に文字としてすべて興し直し、パワーポイントで15時限分のオンデマンド教材をひと月以上かけてつくりあげました。これをつくり終えても直接指導できないもどかしさや、きちんと伝わっているかの不安なども多く抱えました。結局、①すべてオンデマンド教材、②オンライン講義とオンデマンド教材の併用、③学期の途中から急遽すべて対面（マスク着用）、④すべてオンライン講義、と様々なパターンを経験することとなりました。今は後期の講義がもうすぐ終了する時期となりましたが、ステイ・ホームやオンライン講義にも慣れ、春には全否定していたオンラインの良さも理解しつつ講義を行っています。

私生活では、めっきり人に会わず、外出を避ける生活がつづいたので、これまで歌ってこなかった歌に挑戦をしました。日常的に対面講義をすると、自然と大きな声も出すこととなりますが、オンライン等の家で隣人を気にしたぼそぼそとした声での講義だけでは「声量がなくなっていく」不安もあり、好きな歌をしっかりと練習することで、その不安を取り払おうとしました。中でも、Whitney Houstonの歌に挑戦したことが心に残っています。現在住んでいる近隣に神奈川県民ホールがあります。学生時代のことですが、ここでWhitneyのコンサートへ行ったことは、今でもよく憶えています。なにしろ警備員など視線を遮るものも一切ない一番前の真ん中で鑑賞できたので、何回も目線が合い、香水の匂いもしっかりわかりました。ひたすら感動していたかけがえのない時間でした。英語の詩などこれまであまり歌ってきませんでした。コンサートでの思い出などを振り返りながらがんばって練習しています。

一昨年前に、友人たちとバンドを組み、去年は披露できるように取り組もうとしていましたが、いまは集まることさえ出来ません。もちろんこのような事態になって出来なくなったことも多々ありますが、後ろ向きになる心持を捨て去りながら、力強く前進していけるようにしたいと思う年頭です。

岡田 純一 89年

## 会費納入一覧（2019年10月～2021年1月）

同窓会は、会員の皆さんよりお預かりいたしました会費により運営されております。

会費は、◇年会費 1,000円 終身会費 30,000円 です。

《 振込先 ◇青山学院大学教育学科同窓会 ゆうちよ00120-2-195468 》

榎本 鐵雄 (1958年)	押川 美智子 (1958年)	大塚 泰子 (1959年)	北村 操 (1959年)	國岡 英久 (1959年)
星 慶子 (1959年)	松田 生子 (1959年)	渡辺 稜子 (1959年)	大村 つる子 (1960年)	富沢 寿美子 (1960年)
山崎 翠 (1960年)	神山 武 (1961年)	小林 厚子 (1961年)	小林 容子 (1961年)	堅村 美恵子 (1961年)
湊口 京子 (1961年)	友森 和子 (1961年)	岩田 京子 (1963年)	遠藤 久美子 (1962年)	米津 奈津子 (1962年)
稲葉 みな子 (1963年)	内山 貴美子 (1963年)	太田 春男 (1963年)	須崎 敬子 (1963年)	田中 正子 (1963年)
本村 瑤子 (1963年)	新井 照子 (1964年)	井上 悦子 (1964年)	関 祐子 (1964年)	大坪 由紀子 (1965年)
松野 富久子 (1965年)	牧 幸子 (1966年)	田中 美津恵 (1967年)	富村 陽子 (1968年)	黒田 田鶴子 (1969年)
鈴木 春雄 (1969年)	鷺尾 恵子 (1970年)	祢津 啓 (1970年)	小城戸 善子 (1970年)	白井 慶子 (1972年)
東村 滋子 (1972年)	吉野 勲 (1972年)	青野 幸子 (1975年)	鍬形 良子 (1975年)	湯浅 孝男 (1975年)
濱中 浩子 (1976年)	上野 利夫 (1977年)	金澤 明 (1977年)	山田 和豊 (1977年)	秋山 和子 (1978年)
飯塚 博茂 (1978年)	齋藤 明子 (1978年)	富永 瑠美子 (1978年)	工藤 智子 (1979年)	金子 久美子 (1980年)
須川 美弥子 (1980年)	西村 奈津子 (1981年)	吉野 一子 (1981年)	澁谷 智香子 (1983年)	宮川 たまき (1983年)
小松 香代 (1987年)	加藤 久美子 (1988年)	鈴木 智子 (1988年)	遠山 登美子 (1988年)	中嶋 司 (1989年)
濱崎 裕子 (1989年)	小平田 仁志 (1990年)	細谷 典子 (1991年)	上田 直子 (1992年)	清水 修子 (1992年)
清水 勉 (1993年)	鎌田 裕子 (1995年)	植場 鉄平 (1997年)	原田 憲一 (1997年)	青木 洋介 (2002年)
長澤 有希 (2002年)	塩田 怜史 (2010年)			



## 編集後記

教育学科同窓会では、パソコンの得意な方のご参加を求めています。ご興味のある方は、トップページ同窓会メールにてお問い合わせください。お待ちしております。

青学校友会教育学科 検索

広報委員 澁谷智香子（責任者）・浦上 義夫  
石原 幸世・楠窪 政江・鈴木ふみ子

発行／青山学院大学教育学科同窓会  
発行人／比佐 實  
編集人／岡田 純一